

介護経営者向け情報紙

在宅から施設、周辺産業まで

週刊 高齢者住宅新聞

Elderly Press Newspaper

2024年(令和6年)

11月13日

第779号 毎週水曜日発行

発行人 網谷敏敏 23,100円
年間購読料 (送料込・税込)

(株)高齢者住宅新聞社
〒104-0061
東京都中央区銀座8-12-15
☎03-3543-6852(編集部)



TOPICS

ニュース 2面
厚労省 精神疾患患者 地域で

介護BIZ 3~9面
介事連 全国大会2500名集結

社会福祉法人かるべの郷福祉会 業務分担にインカム併用
シューベルリアン DX化で3対0.9配置へ
MCS 認知症ケア最先端 発信

HTC 理念浸透で黒字経営

医療 10面
ハノンケアシステム 電力カルと事務代行で効率化

関西 12・13面
Busifro-Search 介護・障害・児童事業所を検索可能

トップインタビュー 16面
ハートケア 教育で介護の質底上げ

BPSD対応を強化

東京都 事業者向けプログラム提供



▶日本版BPSDケアプログラムに取り組み介護現場

東京都では2018年に東京都医学総合研究所と協働で「日本版BPSDケアプログラム(以下「ケアプログラム」)を開発し、都内事業所を中心に普及を図っている。介護職員の経験・能力問わずBPSDへ適切に対応できるようにし、認知症への対応力を強化。認知症の人が地域で暮らし続けられる共生社会を目指す。

■認知症、40万人に 都福祉保健局が22年度に発表した「令和4年度認知症高齢者数等の分布調査」によると、都内で要介護(要支援)認定を受けている高齢者のうち見守りまたは支援の必要な認知症高齢者(日常生活自立度Ⅱ以上)の数は22年度で36万人、40年には42万人に増加すると推計。それを支える介護職員は、外国人やスポーツワーカーなどこれまで以上に多様化して

■研修とシステム提供 ケアプログラムでは個別具体的な「ケア計画」についてPDCAサイクルでの改善を図っていく。都内のグループホーム・訪問看護・居宅介護支援事業所で行われたケアプログラムの効果検証では、NPI評価について非介入群は6ヵ月後の得点がマイナスイメージであったのに対して、介入群はマイナスイメージが減少した。これは毎日発生していたBPSDが週1回程度まで抑えられたことを意味している。

■ケアプログラムの流れ ①各区市町村が実施するアドミニストレータ養成研修を職員が受講する 原則eラーニング。本研修及び計2回のフォローアップ研修を合わせて8時間程度。研修費用は都が負担

②行動・心理症状の国際的な評価尺度「NPI評価尺度」を使用してBPSDの頻度・重症度を点数化する 「その利用者さんは、あなたには真実ではないとわかることを信じていますか?例えば、他の人が自分を傷つけようとしている、自分からものを盗もうとしていると言っていますか?」といった質問に、皆で話しあって「はい・いいえ」で回答。データベースにその結果を入力するとグラフ化される

③チームで背景要因(ニーズ)を分析する 「BPSDの発生は『身体に痛みがある』など苦痛や満たされていないニーズがあることを知らせるSOSである」という視点に立脚して進める。背景要因の分析には23項目からなる専用のチェックリストを用いる。「ほかの利用者・周りの人との交流がない」といった質問に介護職員それぞれが「はい・いいえ」で回答。なぜそうした回答をしたのかをチームで議論し、共有することで分析を深めていく

④チームで話し合いケア計画を策定する ケア計画は50字以内で、かつニーズに直結する具体的な行動を記述する

⑤3週間~1ヵ月半のサイクルでケア計画の再検証を行う NPI評価の結果はデータベースで点数がグラフ化され、ケアがもたらした変化を視覚的に把握できる

※②~⑤のチームでの議論プロセスを、アドミニストレータ(研修修了者)がファシリテーターとなって進める

出所:東京都の資料を基に編集部作成

行動の背景、職員が熟考



心のひろば 井上信太郎社長

弊社が運営するグループホーム「地域ケアサポート館福の家」では22年にケアプログラムの運用を開始した。入居者の80代女性の例では、「私の自転車がない」と探して始め、帰宅しようとする行動がほぼ毎日起こること、夜間には暴言などが見られていたことなどから、ケアの改善に取り組むこととなった。

「水分摂取量が不足している」「身体の痛みがある」「聴覚の問題がある」という項目にチェックが入った。普段の様子について話し合うなかで、声をかけられた際に顔の右側の耳で聴こうとするしぐさをすることが分かり、ケア計画は「話しかけるときは右側から声をかける」となった。

ケアプログラムの実践を通じて職員が「認知症だから仕方ない」と思考停止に陥らないようになった。一方で、現場会議には1時間程度要するため、その機会をいかに確保していくかが今後の課題だ。

普及しやすさを重視で開発



東京都医学総合研究所 社会健康医学研究センター 西田淳志センター長

「水筒を忘れた」「トイレに行かない」といった簡潔・明瞭なケア計画を作成し、誰でも実行できるような仕組みとした。日本版ケアプログラムはスウェーデンのものを参考に作成した。その理由は普及のしやすさだ。スウェーデンのプログラムが全国に普及するのに要した時間は数年程度であった。日本では認知症の人が今後も増加していく。少数精鋭の認知症のスペシャリストを育成する方針では時間的にも量的にも間に合わない。

今後の日本の認知症ケアについては、スペシャリストでなく、対応能力を持つジェネラリストを数多く育成することも必要だ。

介より 始めよ

11月11日といえば「介護の日」だが、「サムライの日」でもある。11を漢数字で書くと「十一」に見えることから制定されたそう。戦乱渦巻く乱世の時代から日本近代の夜明けまで、獅子奮迅の活躍をかすていら御頂戴をした侍たち。彼らも見られる。▽時代は下って現代、企業では介護離職対策が急がれる。主君たる会社経営者も、介護離職を防ぐ制度の整備をお願い申し上げ候。

幕末、沼津藩藩士の金沢八郎の息子である野重教が記した日記では、父親の介護のために休暇を取得したことが事細かに記されている。周囲の理解もあったようで、ある日の日記には「殿様より実父君御不快御尋としてかすていら御頂戴被成候」という記述も見られる。▽時代は下って現代、企業では介護離職対策が急がれる。主君たる会社経営者も、介護離職を防ぐ制度の整備をお願い申し上げ候。